企画展「浮世の和本―江戸前期絵入り本の世界―」を振り返る

嶌田　修（資料管理課／展示委員会）

◆はじめに

図書館展示委員会では、2021 年 10 月 1 日（金）から 11 月 11 日（木）まで、企画展「浮世の和本―江戸前期絵入り本の世界―」を開催した。本企画展は当初 2020 年春に開催の予定であったが（本誌第 97 号で案内も出している）、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、延期となっていた。その後、他の企画を挟み、今回 1 年半越しでの開催となった。

しかし、展覧会が開催できたとはいえコロナ禍の状況は依然として変わらず、今回も代替案を兼ねた Web での発信も並行して行った。本稿では、それらの点も含め報告をしたい。

企画展ポスター

◆展示の概要

本展のテーマは、タイトルにも示されているように、江戸時代における絵入り本（挿絵入りの本）を主な対象とし、挿絵の紹介はもちろん、その背景にある書籍の流通や出版文化にも焦点をあてたものである。取り上げる時期は、江戸時代前期（17 世紀～ 18 世紀前半頃）とした。それまでの写本に代わり、各版元から大量に版本が出版され、浮世草子が大ヒットした時代である。展示では、仮名草子や浮世草子をはじめ、案内記など様々な和本を出陳した。

また、現物資料の展示とともに、今回も文化資源データベース内のバーチャルミュージアム上での「展示」も行った。そしてその資料すべてを、IIIF に対応した形で公開した。それらの高精細画像は Universal Viewer などの IIIF ビューワによって手軽に見ることができ、各挿絵の細部の比較などをはじめ、存分に活用いただけるものではないかと思う。さらに、教育・総合科学学術院教授の中嶋隆先生にご出演いただいた、「浮世の絵入り本」と題した関連動画も作成した。本動画は、基本的には企画展に沿った内容となるが、江戸時代の絵入り版本を学ぶ解説動画として独立した内容でもある。こちらもバーチャルミュージアム上で観ることができるので、公開した各資料とともに是非一度ご覧いただければと思う。展示室におけるリアル展示は終了したが、Web 上の展示空間への扉は今も開かれている。[*1]

展示風景

関連動画より（講師：中嶋隆先生）

◆挿絵を描いた絵師たち

本展は、上記でも述べたように、絵入り本という資料を対象に据えながら、写本と版本の関係、仮名草子や浮世草子などの文学ジャンル、各挿絵の画風、当時の書籍流通や出版文化など、多様かつ大きなテーマを内包した企画であった。展示においてそれら全てに言及することは簡単ではなかったが、ここでは挿絵を描いた絵師に注目し、あらためてそのいくつかを紹介したい。[*2]

まずは、上方の絵師である吉田半兵衛と蒔絵師源三郎（ともに生没年未詳）について見てみよう。両者とも井原西鶴の作品には欠かせない挿絵画家である。

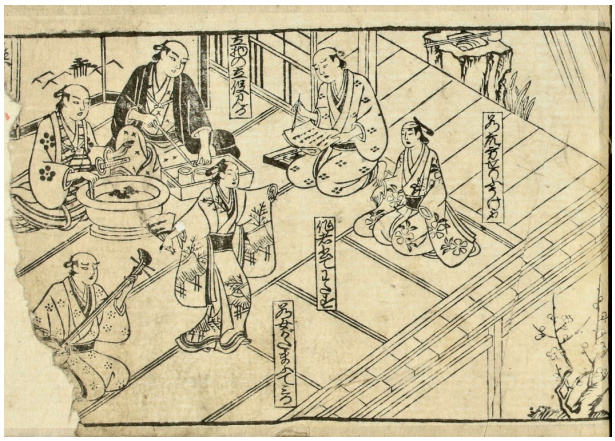
吉田半兵衛は『武道伝来記』や『日本永代蔵』など多くの西鶴作品の挿絵を担当した。また、署名などが確認できる在名本としては、『山路の露』が有名である。半兵衛が描く人物の容姿は、穏やかで品があるといわれる。江戸の菱川師宣と並び称される上方絵師の第一人者といってよいだ

ろう。蒔絵師源三郎は半兵衛の後継者として、浮世草子のほか様々な作品の挿絵を描いた。西鶴の作品では『世間胸算用』や『西鶴織留』などがあげられる。ただし、多くの絵は源三郎単独で描いたものではなく、それらは源三郎風とされ、在名本は『人倫訓蒙図彙』のみである。画風は、人物の頭が大きく描かれる点などが個性的であるといわれている。

一方、江戸の絵師といえば菱川師宣（-1694）があげられよう。浮世絵師として肉筆の美人画などを描くとともに、絵本の挿絵も数多く手がけた。西鶴の『好色一代男』の江戸版は師宣の挿絵である。『江戸雀』には「菱川吉兵衛」の署名がある。また、門流に古山師重がおり、師重は『好色江戸紫』の挿絵を描いている。

その他の絵師では、京都で活躍した西川祐信（1671-1750）をあげておきたい。祐信は、浮世草子作家の江島其磧とコンビを組み、主に八文字屋八左衛門を版元とする役者評判記や浮世草子などに挿絵を描いた。祐信の絵の特徴は、人物の背景まで詳細に描き写実性が強いことがあげられ、その画風や構図は後世の浮世絵師に大きな影響を与えたといわれる。

菱川師宣挿絵『江戸雀』より



西川祐信挿絵『役者口三味線』より

吉田半兵衛挿絵『山路の露』より

蒔絵師源三郎挿絵『世間胸算用』より

以上、それぞれ特徴のある絵が描かれ、読む者は文字テクストとともに、あるいはそれ以上に、それらの絵に魅せられ、作品の世界に入り込んで行ったことであろう。

◆おわりに

今回より来場者数をカウントさせていただくことにしたが、2,000名を超えるご来場をいただき、委員一同心より感謝している。また、本企画の後の時代（江戸中・後期）も絵入り本は形を変えながら出版され続けている。近いうちに、それに関した企画も開催できればと考えている。

*1:　バーチャルミュージアム
URL：https://archive.waseda.jp/archive/vm-top.html

*2:　仲田勝之助編校『浮世絵類考』（岩波書店、1941年）、『浮世絵大事典』（東京堂出版、2008年）、『浮世草子大事典』（笠間書院、2017年）などを参照。